

甲虫コレクションガイド 6

農研機構 農業環境変動研究センター・昆虫標本館 の甲虫コレクション

吉武 啓

〒 305-8604 つくば市観音台 3-1-3 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
農業環境変動研究センター (zoumushi@affrc.go.jp)

Beetle Collection of the Insect Museum, Institute for Agro-Environmental Sciences, NARO (NIAES)

Hiraku YOSHITAKE

はじめに

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）に属する農業環境変動研究センター（農環研）は、1893年に農商務省農事試験場が東京・西ヶ原に設置されたことに端を発する組織である。

試験場の統合による農業技術研究所（農技研）の設置（1950年）や西ヶ原から筑波研究学園都市への移転（1980年）、農技研の改組による農業環境技術研究所（農環研）の設置（1983年）を経て、2016年4月1日から現体制となった。

同センターの標本保管施設である昆虫標本館（図1）には、農業生態系に生息する種を中心に、農事試験場における昆虫部の設立（1899年）以降に蓄積された130万点を越える昆虫標本やさまざまな昆虫関連資料が保管されており、その中には多数の甲虫類の標本や資料が含まれている。それらは主として同センターの環境情報基盤研究領域に属する昆虫分類評価ユニット（旧昆虫分類研究室）のスタッフによって管理されている。昆虫標本館の沿革や所蔵標本の概要については安田（2002）

に詳述されている他、個別のコレクションについても歴代の研究員による紹介記事が機関誌上でいくつも公表されており（栗原ら，2010；中谷ら，2003，2005，2012，2014；安田ら，2004；吉松・中谷ら，2006，2007，2011，2015；吉松・吉武ら，2011；吉武ら，2010，2011，2012），甲虫コレクションについても既に概説されている（吉武ら，2009）。

必然的に前報と重複する部分が多くなってしまいが、今回は甲虫研究者・愛好家一般に向けて農環研の昆虫標本館における甲虫類の標本管理とコレクションの概要について紹介したい。

昆虫標本館所蔵の甲虫コレクションの概要

当館の面積は600平方メートルで、乾燥標本所



図1. 昆虫標本館。

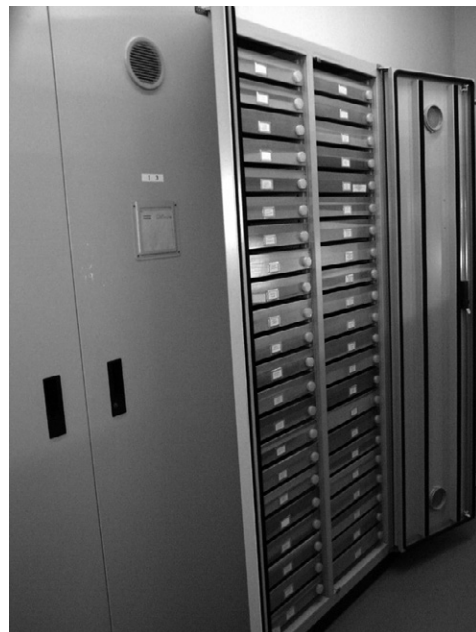


図2. 甲虫コレクションの収蔵状況。



図4. 「土生コレクション」の一部（ゴミムシ類）.

目録には、約 1,050 種 22,914 点の標本情報（うち 190 点はホロタイプ）が掲載されている他、特筆すべき種として 47 種が挙げられ、全形写真と共に各種について解説されている。二次資料としての利用価値が非常に高い目録であり、これまでに学術雑誌上から同好会誌上に至るまで多くの論文・報文で引用されている。目録に掲載された全標本が“土生コレクション”として一元的に保管されているほか（図 4）、ご家族のご希望と故・服部伊楚子氏の仲介により、一連の研究論文に使用された原図等の関連資料も当館に遺贈されている。昆虫学者としての土生氏については、Uéno (2009) による追悼記事に詳しいので是非ご一読いただきたい。その生き様には個人的に色々と感じる所がある。

田中コレクション

約 21,000 点。U.S. Army Medical Laboratory, Pacific の元 Entomologist であり、蚊とゴミムシの研究者として著名な田中和夫（たなか かずお）氏から寄贈されたオサムシ科を中心とする甲虫類のコレクションであり、日本産ゴミムシ類のホロタイプ 24 点をはじめとする学術的価値の高い標本が多数含まれている（図 5）。これは前述の土生コレクションにも言えることだが、湿地性種を中心に関東地方の絶滅産地の標本が非常に多いことが特徴的である。その他、スマトラやタイなどに長期滞在された際にご自身で採集された東南アジア産甲虫コレクションも充実している。ご本人自ら整理された標本を 2003 年から順次受け入れ、2013 年に完



図5. トネガワナガゴミムシ *Pterostichus (Badistrimus) bandotaro* Tanaka, 1958 のホロタイプ.

了した。前述の土生コレクションと共に、我が国におけるゴミムシ研究に欠くことのできない重要なコレクションである。これまでに 20,761 件の標本情報のデータベース化が完了しており、目下日本産オサムシ科の標本目録を作成中である。なお、全標本は“田中コレクション”として一元的に、土生コレクションに隣り合う形で保管されている。

野淵コレクション

約 20,000 点。農林水産省林業試験場保護部昆虫第二研究室長であった故・野淵輝（のぶち あきら）氏によって収集されたキクイムシ科とナガキクイムシ科を中心とする標本コレクションであり、49 点のタイプ標本が含まれる。野淵氏の希望により 1991 年に同試験場の後身である森林総合研究所から当館に移管された。木材害虫が数多く含まれる両科のコレクションとしては世界有数の規模であり、森林資源管理や植物防疫上の重要性が非常に高いため、近年は本コレクションのデータベース化を優先的に進めている。これまでほぼデータ入力を終えているが、学名の再確認や再同定を要する標本が少なからず存在するため、このグループの専門家である森林総合研究所の後藤秀章氏のご協力を得ながら何とか目録化に漕ぎ着けたいと考えている。キクイ・ナガキクイムシ類の標本は 1 針に複数頭が固定されている場合が多いため、便宜上 1 針 1 点とカウントしており、実際に本コレクションに含まれる標本の個体数は 20,000 点よりはるかに多い。また、本コ

レクションには、ツツキノコムシ科など食菌性甲虫類の標本も含まれるが、大部分未整理である。なお、同様にキクイムシ科とナガキクイムシ科を中心とする数千点の標本から成る新島善直コレクションも当館に保管されている。

藤村コレクション

約 33,000 点。元農林水産省熱帯農業研究センター企画科長の藤村俊彦（ふじむら としひこ）氏から 1997 年に寄贈されたコレクションである。国内外から収集された多数の甲虫標本が分類群を問わず含まれているが、とくに多くの樹木害虫を含むカミキリムシ類のコレクションが充実しており、ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata* Fujimura のホロタイプや、世界に数頭しか標本のない稀種 *Megopis terminalis* (Gahan) の標本など学術的に貴重な標本が数多く含まれている。目下、元森林総合研究所の楨原寛氏が当館所蔵のカミキリムシ類の標本を再整理中であり、藤村コレクションから続々と新知見もたらされている（楨原・吉武, 2013, 2014a, b, c など）。

湯浅コレクション

農林省農事試験場害虫部長、農技研総務部長（病理昆虫部昆虫科防除第 2 研究室長と併任）を歴任された故・湯浅啓温（ゆあさ ひろはる）氏の標本コレクションである。主として農業害虫の標本で構成されており、応用昆虫学分野において利用価値の高い貴重な資料となっている。とくに、同氏が研究対象とされていたハムシ科やタマムシ科を中心とする甲虫コレクションが充実している。

桑山コレクション

農林省北海道農業試験場長を務められた故・桑山覚（くわやま さとる）氏の標本コレクション



図6. ゾウムシ上科コレクションの一部（カタゾウムシ類）。

である。1989 年に同試験場から当館に移管された。同氏は「南千島昆虫誌」（桑山, 1967）の著者として著名な方であり、同誌に掲載された昆虫類の記録の証拠となる南千島産甲虫類の標本 2,000 点余りが含まれる。戦後、日本人研究者が南千島において学術調査を行うことは極めて困難になったため、当地の昆虫相を知る上で大変貴重な資料と言える。これまでに画像を含む標本情報のデータベース化が完了している。

ゾウムシ上科コレクション

筆者が研究対象としているゾウムシ上科（キクイ・ナガキクイムシ科を除く）については、農環研所蔵の標本約 30,000 点と筆者のコレクションを統合する形で徐々に整理を進めている（図 6）。1994 年以降に筆者自身が国内外で採集した標本に加え、譲渡や交換、購入等によって筆者が際限なく集めた標本が主要な構成要素となっている。日本をはじめとする東アジア産種が中心で、いわゆる珍品も数多く含まれている。その中でも、筆者の専門であるサルゾウムシ類とカタゾウムシ類のコレクションがとくに充実している。大分前に自身のゾウムシコレクションを 50,000 点まで数えたのだが敢え無く挫折し、その後も「採るは、貰うは、買うは、・・・」で毎年数千点ずつ増えて行く一方だったので、整理はおろか新たな収集品のマウントすら全く追い付かず、今ではコレクションの全容を把握できていない。せめてこれ以上増やさないう採集に出かけるのを控えれば良さそうものだが、性なのだろう、こればかりはどうしても止められない。したがって、一人の力でコレクション全体を整理するのは絶望的と言う他ないが、時折標本調査のために当館を訪れる国内外のゾウムシ研究者たちの力を借りながら、分類群毎に整理を進めることで少しでも状況を改善して行きたいと考えている。なお、当館所蔵の日本産ミツギリゾウムシ科については 2012 年までの収集品に基づいて標本目録を作成し、公表している（吉武ら, 2013）。

三橋ノート

「三橋ノート」とは、故・三橋信治氏が作成した日本産昆虫に関する文献目録である。明治時代から昭和 20 年代後半までの国内の主要な昆虫関連文献に現れた昆虫の学名や和名、その文献書誌情報を分類群毎に整理したもので、全 476 冊の手書きのノートである。明治以来の日本産昆虫に関する文献情報がほぼ網羅されてお

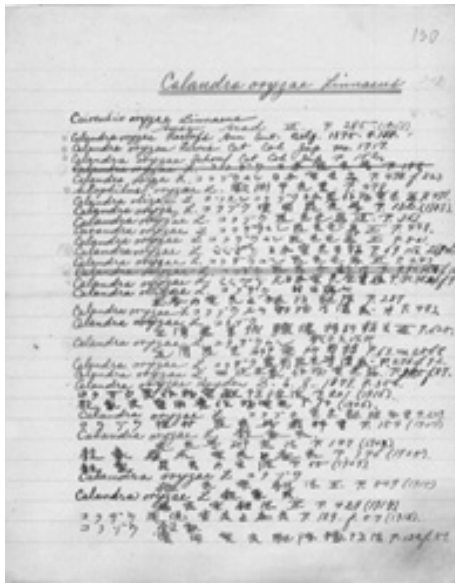


図7. 三橋ノートの一部(コクゾウムシの頁).

り、日本の昆虫学の前半期における昆虫情報の出典を調べることができる。このノートは昆虫研究者や昆虫愛好家の間で有用な情報源として広く利用され、昆虫学の発展に大いに寄与してきた。三橋氏の没後は農環研の前身である農技研に寄贈され、保管されている。最近の文献データベースでは入手することのできない昭和20年代以前の古い情報を検索することができる貴重な二次文献である。その内訳は、コウチュウ目(136冊)、チョウ目(119冊)、ハチ目(65冊)、ハエ目(43冊)、カメムシ目同翅類(42冊)、カメムシ目異翅類(20冊)、他51冊の全476冊であり、各頁には日本産の昆虫27,964種に関する文献書誌情報(著者名、タイトル、書名、巻、号、頁、発行年等)が分類群毎に整理されている。農環研では、これら全頁のデジタル画像を作成し、画像データベースとしてウェブ上に公開している(http://www.niaes.affrc.go.jp/inventory/insect/inssys/m_note01.html; 吉武ら, 2011; 吉松ら, 2012; 図7)。裏面の分布等に関する書き込みも含め三橋ノートの99,419頁全ての情報が閲覧可能である。なお、本画像データベースには、歴史的経緯のため、昭和20年以前の台湾、朝鮮半島および中国東北部の昆虫とその関連文献の情報も含まれている。

昆虫オブジェコレクション

昆虫オブジェコレクションとは、世界各地から蒐集された昆虫をモチーフとする玩具・民芸品等のコレクションで、梅谷献二コレクション1,962点



図8. 昆虫オブジェコレクションの一部(スカラベ).

と長谷川仁コレクション434点など2,500点以上の収集品から成り、その中で甲虫類をモチーフとしたオブジェは約500点である(図8)。決して網羅的なコレクションとは言えないものの、その内容を分析すると、ある程度「身近な昆虫の地域性」について知ることができる。例えば、テントウムシをモチーフにしたオブジェは143点存在し、世界各国で見られるのに対し、カブトムシ・クワガタムシのオブジェは173点と数こそ多いものの、その原産国の実に83.2%は日本であり、取得した年も1990年以降の物が圧倒的に多く、この四半世紀の我が国におけるカブト・クワガタへの偏愛ぶりが垣間見える。このように、本コレクションは昆虫文化学的に貴重な資料と言える。さらに、中には美術的な価値を有する所蔵品も数多く含まれており、美術館への貸出実績もある。ただし、本コレクションには宝石類が全くと言って良いほど含まれていない。これは単純にコレクターの経済力によるものと聞き及んでいるが、管理する側としては厳重な警備が不要なので幸いと思っている。

おわりに

以上、農環研の昆虫標本館所蔵の甲虫コレクションの概要等について紹介させていただいた。標本調査等、収蔵品の利用を希望される方は筆者にご連絡いただきたい。筆者の都合がつかなくとも他の研究員2名のいずれかは対応可能な場合が多いので、日時についてはかなり融通が利くと思う。幸いなことに当館の標本収容能力には未だ余裕があるが、すでに大口の遺贈予定がいくつかあることや、今後20年間に多数の個人コレクションの寄贈が集中する可能性が高いことを考慮すると、キャパシティオーバーになるのは時間の問題と思われる。将来的な混乱や貴重な標本の散逸等を避けるために、そろそろ一つのコレクションを複数の標

本保管機関が分担して受け入れる体制を構築する時期に差し掛かっているのではないかと考えている。コレクションの性格や内容、整理状況が千差万別であることから、また不幸なことに ABS 問題が絡む可能性が高いため、受け入れ分担についてはケースバイケースの臨機応変さが求められ、難しい面が多いが、ごく緩やかなものでも良いので、何らかの枠組みは欲しいものである。寄贈者側に立つ方々も、「自分のコレクションを一カ所にまとめて保管してほしい」というごく自然な要望が、日本国内ではもはや通用しなくなりつつあることを心得ておいていただきたい。

謝辞

最後に、当館に貴重な標本を寄贈いただいた多くの方々に厚くお礼申し上げる。また、本稿を草する機会を与えて下さった奥島雄一氏（倉敷市立自然史博物館）と吉富博之氏（愛媛大学ミュージアム）、昆虫標本館の歴史について種々ご教示下さった宮崎昌久氏（農環研名誉研究員）と安田耕司・吉松慎一両氏（農環研）に感謝の意を表したい。

引用文献

- 桑山 覚, 1967. 南千島昆虫誌. 北農会, iv + 225 pp., 6 pls.
 Habu, A., 1967. Fauna Japonica, Carabidae, Truncatipennes group (Insecta: Coleoptera). Keigaku Publishing Co. Ltd., xiv + 338 pp., 27 pls.
 Habu, A., 1973. Fauna Japonica, Carabidae: Harpalini (Insecta: Coleoptera). Keigaku Publishing Co. Ltd., xiii + 430 pp., 24 pls.
 Habu, A., 1978. Fauna Japonica, Carabidae: Platynini (Insecta: Coleoptera). Keigaku Publishing Co. Ltd., viii + 447 pp., 36 pls.
 栗原 隆・吉武 啓・吉松慎一, 2010. 農業環境技術研究所・標本シリーズ6: 堀川正美コレクション(カミキリムシ類) インベントリ, (8): 48-49.
 栗原 隆・吉武 啓・中谷至伸・吉松慎一, 2010. 農業環境技術研究所所蔵日本産タマムシ科(昆虫綱: コウチュウ目) 標本目録, 農業環境技術研究所報告, (27): 141-159.
 栗原 隆・吉武 啓・中谷至伸・吉松慎一, 2012. 農業環境技術研究所に寄贈された堀川正美氏収集のカミキリムシ類(昆虫綱: コウチュウ目) コレクション目録. 農業環境技術研究所報告, (30): 39-83.
 榎原 寛・吉武 啓, 2013. ムモンチャイロソバナネカミキリの九州山地における古い記録. さやばねニューシリーズ, (12): 60-61.
 榎原 寛・吉武 啓, 2014a. 1953年に東京都で採集されていたセダカコブヤハズカミキリ. 月刊むし, (522): 55.
 榎原 寛・吉武 啓, 2014b. 日本産カミキリムシの興味ある記録. さやばねニューシリーズ, (13): 50-51.
 榎原 寛・吉武 啓, 2014c. ボルネオ島初記録のカミキリム

- シ科甲虫3種. さやばねニューシリーズ, (16): 36-37.
 中谷至伸・安田耕司・吉松慎一, 2003. 農業環境技術研究所・昆虫標本館所蔵のタイプ標本とその活用について. インベントリ, (2): 46-48.
 中谷至伸・安田耕司・吉松慎一, 2005. 農業環境技術研究所・標本シリーズ1: カメムシ目(半翅目異翅亜目). インベントリ, (4): 38-39.
 中谷至伸・吉武 啓・吉松慎一・宮崎昌久, 2012. 農業環境技術研究所・標本シリーズ9: 宗林正人コレクション. インベントリ, (10): 56-58.
 中谷至伸・吉武 啓・吉松慎一・石川 忠, 2014. 農業環境技術研究所サシガメ科標本の目録化. インベントリ, (11): 55-57.
 Uéno, S.-I., 2009. In Memoriam Akinobu Habu (22 June 1920-28 June 2008). Elytra, Tokyo, 37: 181-200.
 安田耕司, 2002. 昆虫標本館. インベントリ, (1): 52-56.
 安田耕司・吉松慎一・中谷至伸, 2004. 昆虫標本館—最近の寄贈標本について—. インベントリ, (3): 51-52.
 吉松慎一・安田耕司・中谷至伸, 2006. 農業環境技術研究所・標本シリーズ2: 佐藤力夫コレクション. インベントリ, (5): 47-48.
 吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2007. 農業環境技術研究所・標本シリーズ3: 中島秀雄コレクション. インベントリ, (6): 38-39.
 吉松慎一・中谷至伸・吉武 啓, 2011. 農業環境技術研究所・標本シリーズ8: 井上寛コレクション. インベントリ, (9): 55-56.
 吉松慎一・中谷至伸・吉武 啓, 2015. 昆虫標本館へ最近寄贈されたタイプ標本. インベントリ, (12): 32-34.
 吉松慎一・吉武 啓・中谷至伸・栗原 隆, 2011. 農業環境技術研究所に寄贈された昆虫タイプ標本379点の公開. インベントリ, (9): 20-22.
 吉松慎一・吉武 啓・中谷至伸・安田耕司, 2012. 昆虫文献目録「三橋ノート」全476冊の画像の完全公開. インベントリ, (10): 31-32.
 吉武 啓, 2009. 農業環境技術研究所・標本シリーズ4: コウチュウ目. インベントリ, (7): 29-32.
 吉武 啓・馬場友希・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸, 2010. 農業環境技術研究所・標本シリーズ5: 昆虫・クモ類のDNA バーコーディングに関連する標本コレクションおよびデータベースの構築. インベントリ, (8): 44-47.
 吉武 啓・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 農業環境技術研究所所蔵土生コレクションオサムシ科標本目録(昆虫綱: コウチュウ目). 農業環境技術研究所報告, (28): 1-327.
 吉武 啓・中谷至伸・吉松慎一・田中絵里, 2011. 農業環境技術研究所・標本シリーズ7: 日本産ミツギリゾウムシ科(コウチュウ目). インベントリ, (9): 53-54.
 吉武 啓・中谷至伸・吉松慎一・田中絵里, 2013. 農業環境技術研究所所蔵の日本産ミツギリゾウムシ科(昆虫綱: コウチュウ目)標本目録. 農業環境技術研究所報告, (32): 1-10.
 吉武 啓・吉松慎一・中谷至伸・上田義治, 2011. 昆虫文献目録「三橋ノート」コウチュウ目135冊の画像公開. インベントリ, (9): 23-24.
 吉武 啓・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2012. 土生コレクション・オサムシ科の標本目録. インベントリ, (10): 27-28.

(2016年9月12日受領, 2016年9月20日受理)